

COLARE

1995年ベルリン国際映画祭主演女優賞
1995年金馬奨グランプリ
最優秀主演女優賞・最優秀助演男優賞・最優秀撮影賞

出演=ジョセフィン・シャオ/ロイ・チャオ/ロウ・カーイン/ロウ・コーラン
製作・監督=アン・ホイ/脚本=チャン・マンキョン/撮影=リー・ピンピン/音楽=大友良英
オリジナルサウンドトラック盤=キングインターナショナル
1995年・香港映画/製作=ゴールデンハーベスト・エンターテインメント
提供=テレビ東京、大映、ツイ/配給=大映の東光徳間、ツイ
アン・ホイ[許鞍華]監督作品



夏にきらめく雪の花。
女一番美しく――

女人、四十。

によにん、よんじゅう

SUMMER SNOW

世界の名画を見る会 Vol. 5



■講演：高野悦子(岩波ホール総支配人)
〈演題〉香港返還と中国映画

■上映作品：「女人、四十。」(香港映画)
によにん、よんじゅう

'97

7月13日

開場13:00 開演14:00

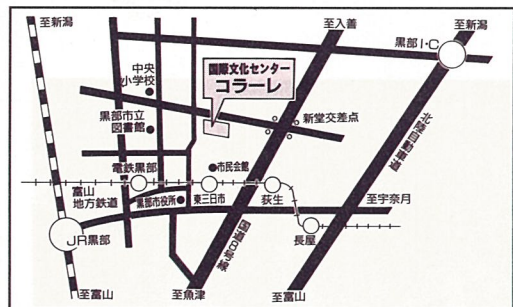
黒部市国際文化センター **コラーレ** (大ホール) 入場料/1,200円(全席自由)
当日1,500円

プレイガイド/コラーレ・黒部メルシー・ロイヤルバリー黒部・魚津サンプラザ・入善コスモ21・朝日アスカ
インフォマート(市民プラザ、CiC)・北日本新聞社・富山県民会館

お問い合わせ/財団法人黒部市国際文化センター
TEL(0765)57-1201 FAX(0765)57-1207



5歳未満のお子さまの入場はご遠慮願います。
一時保育を希望される方は事前にご連絡ください。



主催/財団法人黒部市国際文化センター 共催/北日本放送 後援/黒部市・黒部市教育委員会

女人四十。

によん じゅう

製作・監督＝アン・ホイ(許鞍華)
 脚本＝チャン・マンキョン(陳文強)
 撮影＝リー・ピンビン(李屏賓) / 音楽＝大友良英
 出演＝ジョセフィン・シャオ(蕭芳芳) / ロイ・チャオ(喬宏)
 ロウ・カーイン(羅家英) / ロウ・コンラン(羅冠蘭)
 1995年 / 香港映画 / 101分 / カラー / ヴィスタ / 35ミリ
 提供＝テレビ東京 / 大映 / ツイン
 配給＝大映 © 東光徳閣 / ツイン



仕事に家庭に軽やかに生きるメイに 不意に訪れた"老人問題"、その時メイは…

『女人、四十。』はそのタイトルの通り、40代にさしかかった一人の女の物語。主人公のメイは、夫と高校生のひとり息子を持つ、香港の平凡な家庭の妻として母として一家を仕切りつつ、貿易会社の販売部長として仕事をてきぱきとこなすキャリア・ウーマン。メイのバランスのとれた両立の日々は、突然の夫の母(姑)の死と、夫の父(舅)がアルツハイマー(老人性痴呆症)にかかったことでガタガタと崩れ始める。彼が判るのは嫁のメイのことだけ、実の息子や娘には素知らぬ顔。はた目には滑稽に見える老人の看護と、貿易会社の仕事でのストレスに疲労困憊しつつも、舅が時おり覗かせる少年のような純粋さに、やがてこれまであまりしっくりいっていなかったメイと舅の心は少しずつ通いはじめる。



四十歳代、最も美しく輝いている 女性たちへの讃歌!

香港ニューウェイブの旗手として、『客途秋恨』『清朝皇帝』など多彩な作品を手がけてきた監督アン・ホイは、中国人の父と日本人の母を持つ1947年生まれの48歳。7歳で映画デビュー、60年代は香港のアイドルとして一世を風靡し、今日まで150本以上の作品に出演してきたジョセフィン・シャオ、彼女も同じ1947年生まれ。この40代のパワフルで成熟したふたりの女性が『女人、四十。』を支えている。ややもすれば重苦しくなりがちな"老人問題"という今日的テーマを、女性監督アン・ホイは、持ち前のウィットで肩の凝らない軽快なタッチを活かして、背筋を伸ばして前向きに生きる女の美しさを描ききった。主人公を取り巻く家族の存在とその行動、台詞のひとつひとつのリアルさは、高齢化社会に生きる誰もが身内に抱える問題を巧みに浮き彫りにしている。



「お父さんがこわれちゃった…」シリアスなテーマを軽快に描き 香港では『恋する惑星』の2倍もの観客を動員する大ヒット!

香港では誰でも知っている大女優ジョセフィン・シャオがヒロインとはいえ、観客動員を保証する若手人気スター不在のキャスティング。そしてこれまで避けられてきたシリアスなテーマ。こうした企画がヒットしようとは、誰ひとりとして予想していなかった。だがその作品の近年稀にみる完成度の高さ、軽快な語り口、心洗われる感動の体験が少しずつ口コミで伝わり、常識を打ち破って、地元香港ではあの『恋する惑星』の2倍もの観客を動員、飛び抜けた大ヒットとなった。またホウ・シャオシェンの『好男好女』、ジャッキー・チェンの『レッド・ブルックス』、ウォン・カーウアイの『天使の涙』といった超強カライバルを前にして、95年度台北金馬奨でグランプリを受賞、主要な賞を総ナメにした。これまで欧米ではほとんど知られることなかったジョセフィン・シャオもベルリン国際映画祭で最優秀主演女優賞を獲得、『女人、四十。』は今、国際的に注目されている。

